

若者が旅に求める要素について
——観光業界におけるリベンジ消費の可能性と提案——

社会学部現代社会学科 1822022

指導教員 崎本武志

氏名 小栗淑子

要旨

本研究は、若者が旅に対しどのような欲求をもっているか、また若者を引き付ける要素は何かを調査したものである。旅行者の意向調査は複数あるが、若者に絞ったものは少ない。そこで本研究がそれを担うことで、観光業界のさらなる発展になると考え研究のテーマとした。また喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の解決に寄与すべく、観光業はリベンジ消費の可能性を持っているか、若者に対し有効なリベンジ消費促進策は何かを考察している。

序論では、前述した執筆に至るまで理由と本文の大まかな目次を述べている。

第1章では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染状況や症状、観光業界にもたらされた被害、経済政策「Go To キャンペーン事業」、ウィズコロナ時代の観光様式「新しい旅のエチケット」をまとめた。

第2章では、国内のワクチン接種状況をまとめ、後に各企業の旅行に対する意向に関するアンケート調査の結果を参考に、リベンジ消費の可能性とターゲットを考察した。その結果リベンジ消費は国内旅行であれば可能性があり、ターゲットとしては若い世代が望ましいと述べた。

第3章では、2021年11月16日～18日に本学の学生118名を対象に行った、Googleフォームを用いたアンケート調査の結果と分析・考察をまとめた。調査の結果から若者は大きく分けて「食」と「休息」に関心が高いことがわかった。その他にも本調査では、若者の半数以上が1年に1回は旅行をしている、希望する同行者の規模は少人数もしくは一人、同行者の関係性は同行者の規模に関わらず友人関係が選ばれやすい、食に関係するコンテンツである「食べ歩き」に対し若者は関心が高いといったことが判明した。また、若者は「食」をモノ消費とコト消費の両要素を併せ持つ観光コンテンツであると認識しているという仮説が立てられた。

第4章では、前章の仮説をもとに、さらに食べ歩きに焦点を当てた。その発展として食べ歩きの成功事例と諸問題を参考に、若者に向けたリベンジ消費策を提案した。

結論では、1～4章までをまとめ、反省点と今後の展望を述べた。